

9
月

久野営農経済センターだより①



【TEL】 35-8010

【温州みかん】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

この時期の病害虫防除は、収穫時の外観・品質へ大きく影響します。必ず実施しましょう。

病害虫防除 8月下旬 ~ 9月上旬

- 黒点病 ペンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓
収穫30日前 4回 * 極早生に散布する際は、収穫日に気をつけてください。
- ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 収穫前日 1回 33ml/水100㍓又は
ダニゲッターフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100㍓
- チャノキイロアザミウマ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回
 ヤノネカイガラムシ 又はエルサン乳剤(劇) 1,000倍 100ml/水100㍓ 収穫14日前 2回

浮皮軽減 蚩尻期

フィガロン乳剤 3000倍 収穫7日前まで2回 300㍓/10a

1回目 蚩尻期に散布 2回目 蚩尻期の2週間後 (*ただし、樹勢が低下している樹には散布しない。)

【中晩柑】

病害虫防除 8月下旬~9月上旬 基本防除はみかんの項参照

* 中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましょう。

例) ジマンダイセン水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できません。

- かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓
 ICボルドー412 50倍 2kg/水100㍓

※強風や降雨を伴う台風の前はコサイド3000(クレフノン200倍加用)又はICボルドー412を散布しましょう。

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。

初秋肥 9月中旬 特選みかん配合655 140kg/10a(後期肥大促進・樹勢維持のため)

* 10月下旬にもう1度施肥を行います。 特選みかん配合655 100kg/10a

【湘南ゴールド】

秋口の摘果では肥大促進効果は低いので、病害虫の被害が著しい果実と極小果を中心に仕上げシンニング(摘果)を行いましょう。裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で2S以下を無くしまししょう。

仕上げシンニング (摘果)	9月20日	3.9cm~5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11月20日	4.8cm~6.5cm	

仕上げ摘果・枝吊り

10月以降果実の肥大は緩慢となりますので、その前に小玉果、傷果を摘果し、果実の大きさをそろえましょう。果実の重量で枝が折れたり、裂けやすくなるので、重たくなる前に、枝吊り、枝支えを必ず行いましょう。

施肥 中晩柑の項参照

【レモン】

病害虫防除 8月下旬~9月上旬

- ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 収穫前日 1回 33ml/水100㍓又は
ダニゲッターフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100㍓
- チャノホコリダニ

○かいよう病 黒点病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓ (クレフノン200倍加用)

- ミカンハモグリガ エクシレルSE 5,000倍 20ml/水100㍓ 収穫前日 3回
 アザミウマ類

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。

初秋肥 9月中旬 特選みかん配合655 120kg/10a(後期肥大促進・樹勢維持のため)

* 10月下旬にもう1度施肥を行います。 特選みかん配合655 100kg/10a

【梅】

夏季剪定 9月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施しましょう。

樹の内部に光を入れることで、花芽分化の促進をします。また、夏季剪定の際に残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響します。注意しましょう。

※灰星病発生園での剪定について

- ・結果枝（実のなる枝）に症状がある場合は、切り落とします。
 - ・被害が多い場合は、側枝単位で切り落とします。
 - ・樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝（緑枝など）を残し切り落とします。
- 剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄しましょう。

【キウイフルーツ】

病害虫防除 9月上旬

○果実軟腐病

バルコート水和剤 1000倍 100g/水100ℓ 収穫前日 5回

*カイガラムシ多発園では9月上旬～中旬にトランスフォームフロアブル 2000倍 50g/水100ℓ

施肥

9月中旬と10月中旬に分肥 キウイ配合 100kg/10a

後期肥大は、年間肥大の20%程度あります。肥料の分肥は9月中旬に60%、樹勢回復には10月中旬に40%の2回に分けて行う事で効果が上がります。

【かき】

枝つり

着色を良くするために、果実の重みで下がった枝を吊り上げて、光を入れるようにしましょう。

病害虫防除

7月上旬～10月下旬 カメムシ（夜間に飛来と加害が多いので、夕方に防除しましょう）

○モスピラン顆粒水溶剤（劇） 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫前日 3回

○アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫3日前 3回

○テルスターフロアブル（劇） 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫3日前 2回

* カメムシは山林から飛来して加害します。園の一部に加害が集中する場合があります。園内を良く見回り、加害を発見した時は防除しましょう。（早生種では、加害時期と収穫時期が重なります。収穫前日数には十分に注意しましょう。）

【お茶】

施肥 秋肥 9月中旬

秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用されます。光合成が活発化する10月～11月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右します。2回に分肥し、1回目と2回目の施肥の間隔は20日程度を目安とします。

1回目 8月下旬 足柄茶配合 **033** 80kg/10a

2回目 9月中旬 足柄茶配合 **033** 80kg/10a

病害虫防除の徹底をお願いします。

病害虫防除 8月中旬 ～ 9月上旬

○チャハマキ ファルコンフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 摘採7日前 2回

チャノコカクモンハマキ

【水稻】

水稻の生育状況

令和5年産水稻の生育状況は、草丈は平年と同等～やや長く茎数はやや少ない傾向です。出穂期は平年並み～やや早い状況です。今後の気温は高い予報となっていますので、水管理で稲への負担を軽減しましょう。

水管理

出穂後35日(収穫7日前頃)を目安に落水を行いましょう。(土壌条件にもよります。)

落水が早いと登熟が悪くなります。登熟不良や胴割れを防ぐために、完全落水は収穫作業に差し支えない範囲で出来るだけ遅らせましょう。

高温時対策

気温が高くなると品質の低下が起こりやすくなります。その対策として出穂期、登熟期の間断かん水かけ流し、夜間入水を行いましょう。(特に、夜温が高い日はできる限り夜間入水して、水温を下げ稲の呼吸による消耗を防ぎましょう)

収 穫

収穫適期は、穂に青籾がキヌヒカリ・はるみ・てんこもりでは15%。さとじまんでは10%残っている時期です。

平年の収穫目安 5月25日田植えの場合

キヌヒカリ・はるみ 9月14日頃 てんこもり 9月20日頃 さとじまん 9月25日頃

乾 燥

収穫した籾は、ムシを防ぐため4時間以内に乾燥機に入れましょう。

コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると胴割れし易くなるので、風乾燥を4～5時間行い水分が20%前後になってから火力乾燥(40℃を越えない)し、玄米水分含量を14.5%～15%に調整しましょう。

(循環式乾燥機をお持ちの方は、取扱い説明書に従い作業を行いましょう。)

機械の取扱い

農作業の安全と品質の確保のため、機械は使用前に取扱説明書を読み、機械の性能にあわせて無理せず作業しましょう。

<水稻 斑点米カメムシ類の発生に注意！>

農業技術センターからの予察注意報によると、一部地域にて予察灯への誘殺数が増加しています。斑点米カメムシ類は登熟期の稲を加害し、斑点米の原因となります。また、斑点米だけでなく、出穂から乳熟期に加害を受けると、「不稔」や「しいな」の発生が多くなり減収につながります。水田周辺の雑草管理と適期薬剤防除をあわせて行ってください。

【雑草管理】畦畔および周辺のイネ科雑草の管理

出穂 10 日前まで	定期的除草を行い、斑点米カメムシ類の増殖を防ぐ。
出穂 10 日前～ 収穫 2 週間前	水田内への斑点米カメムシ類の移動を促すことになるため、除草を控える
収穫 2 週間前以降	定期的除草を行う

【薬剤防除】防除適期は水和剤・乳剤等の場合は出穂10日後と24日後頃、粒剤の場合は出穂7日後と21日後頃です。両方の適期に防除を行うとより有効です。

<防除薬剤例> ※店舗在庫がない場合がありますので、購入の際は事前に店舗にご確認ください。

○スタークル粒剤 3kg/10a(収穫7日前 3回) ○スミチオン乳剤 1000倍(収穫21日前 2回)

○ダントツ粒剤 3～4kg/10a(収穫7日前 3回) ○トレボン乳剤 2000倍(収穫14日前 3回)

スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の防除について

スクミリングガイの発生が目立っています。この時期イネは食害されない大きさに育っていますが、非常に繁殖力が旺盛でまだまだ産卵時期が続きます。発生拡大を防ぐためにも対策をしましょう。

【対策】（薬剤散布と捕獲などを組み合わせて防除しましょう）

- 薬剤（スクミノン、スクミンベイト3）散布。貝が集まる深水部分への重点的な散布
- 貝の捕獲や卵塊の除去
- 水田の水口、水尻にネットを取り付け、水路からの侵入や隣接する水田への侵入を防ぐ
- 冬季に耕耘を行い、土中で越冬している貝を潰す

【注意事項】

- スクミリングガイには寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるためゴム手袋等を着用し素手では触らないようにしましょう。

※捕獲した貝は、道路等には捨てないようにしましょう。JAでも収集日を設けていますので、そちらにお持ちください。

お米の出荷はJAへ!! ～令和5年産米の出荷をお願いいたします!～

○子ども達のために！学校給食用米が不足しています！

県内全体で3,500トンが必要ですが、1,500トン以上不足しています！

○安定的な販売先確保のために

新型コロナウイルスにより、外食用需要が減り、他産地ではお米が余り米価にも影響が出てきています。販売先に苦労している業者もいます。しかし、神奈川県ではJAに出荷することで確実に販売され、出荷契約を結んでいけば出荷後すぐに概算金をお支払いできます。

○JAに出荷し、学校給食への供給量を伸ばすことで、神奈川県産米の価格安定に繋がります！

【出荷契約された方】

出荷後、約1週間で「概算金」をお支払いします。また、契約数量に対し、**95%～120%までの範囲内で出荷されたお米には500円/1袋お支払いいたします。**（下限は小数点以下切捨て、上限は小数点以下切上げ）

出来る限り、**契約数量に対し100%以上の出荷をお願いいたします！**

【出荷契約をしていない方】

春に出荷契約を結んでいない方も、出荷することができます。ただし、出荷後に「概算金」をお支払いしますが、加算金はありません。出荷にあたっては所定の手続きが必要となりますので、営農経済センターにお問合せください。※**インボイス制度の都合上「組合員」名義で出荷いただく必要がありますのでご注意ください。**

お問合せは営農経済センターまで